町田市・多摩市と連携して
「誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化」の実現に向けて！

菅政権が誕生し、今秋のデジタル庁設置をはじめ我が国のデジタル政策は大きく加速しました。他方で、地元をまわると、デジタル化により社会から孤立してしまうのではないかという不安の声もたくさん耳にします。

こうした中、我が国のデジタル化に向けた基本方針では「誰ひとり取り残さない、人に優しいデジタル化」を謳っていますが、これを絵に描いた餅に終わらせてはなりません。携帯を使えない人が使いこなせるようきめ細かくサポートする、あるいは携帯を持っていない人の行政手続き等を代行するための支援員の存在が不可欠になります。こうした担い手として、地域のICT企業、社会福祉協議会、シルバー人材センター等が想定されますが、全国の身近な場所に存在する携帯ショップが期待されています。政府はすでに「デジタル活用支援事業」を用意し、今年度だけでも携帯ショップ等1,800箇所で計9万回のワークショップを開催します。

私達は加藤官房長官にも参加していただいて少人数の勉強会を開催し、デジタルデバイド対策（※）の議論を続けてきました。来年度以降は上記の「デジタル活用支援事業」の開催頻度や予算を増やし、更にはワークショップ形式に加えて常設型の支援も設けることなどによって、デジタル大国デンマークのITカフェに近い形の手厚い支援になるよう政府と調整しています。

地元町田市・多摩市でもデジタルデバイド対策をきめ細かく実現すべく、総務省、町田市・多摩市の担当者、町田市・多摩市議会議員、携帯ショップ等をオンラインで繋ぎ、意見交換会を開催しました。この意見交換会を通して、町田市・多摩市がこの事業に意欲的に取り組んでいくことになりました。この事業は国の全額負担なので、自治体の持ち出しはありません。国と地元自治体との情報格差を解消していくことで地元で事業を実現していくのも国会議員の重要な任務だと感じています。

（※）デジタルデバイド･･･インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。

自民党町田支部の都議会議員・町田市議団

東京都議会議員
星だいすけ

吉原修都議会議員（5期）の勇退に伴い、先の都議会議員選挙で初当選させて頂きました。

私たちも、小倉まさのぶさんと共に、
東京都、町田市のためにがんばります。

熊沢 あやり　いわせ 和子　おさむら 敏明　佐藤 伸一郎　藤田 学
若林 あきよし　三遊亭 らん丈　渡辺 げんたろう　石川 よしただ　木目田 ひでお

各地区（町田・南・忠生・鶴川）の小倉まさのぶ通信も配布しています。
ご覧になりたい方はご連絡ください。HP からダウンロードも可能です。

衆議院議員
小倉まさのぶ事務所
@masanobu_ogura　ogura.masanobu
町田事務所：〒194-0013 東京都町田市原町田5-4-7 からかあさ101号 TEL：042-710-1192
多摩事務所：〒206-0041 東京都多摩市愛宕4-9-22 池田ビル103号 TEL：042-400-1751
【E-mail】info.oguramasanobu@gmail.com【HP】http://www.ogura-m.jp/

討議資料
衆議院議員 町田市・多摩市選出（自民党東京都第23選挙区）
真摯に、ひたむきに。
自民党
小倉まさのぶ通信
2021年 vol.3 | 町田 | 堺地区版 |

国会議員はどのように地元の要望を実現すべきか
～８年半の議員活動で考えてきたこと～

地元活動をしておりますと「国会議員は全国民の代表者なのだから、国のために仕事をして欲しい」との声がある一方で「町田市・多摩市の国会議員なのだから、地元に成果を残して欲しい」との声も聞きます。一見相反する意見のようにみえますが、私は双方の意見は矛盾するものではないと思います。町田市や多摩市などの地方自治体は、地域に身近な窓口として自治体の業務だけでなく国の業務も担っています。地方分権が進み自治体の責任の下で行う業務が増えてきたとはいえ、自治体は今も四割程度の税収で六割もの仕事をこなしています。ギャップの二割は地方交付税や各種補助金という形で国から自治体に財源移転されます。この割り振りを国が行いますが、今はそれぞれの地域の財政需要が国の財源を遥かに上回っていますので、真に必要な支援が国から全ての地域に行き届いているとは言えません。そのギャップを埋めるのが国会議員の役割のひとつだと思います。

衆議院議員は（比例復活の議員を除き）289の小選挙区にそれぞれ一人ですから、その議員が地域の事情を国に伝えなければ、国はその地域の特殊事情に目を向けることは殆どありません。私が国会議員になって初めて地元の市長との予算要望活動を行うようになりました。例えば、町田市は多摩川の流水域に面していないので市単独の下水処理場を水系毎に二つも抱えています。大変珍しいことではありますが、その分、他市と比較して財政負担が重くのし掛かっています。このような事情を数年にわたって総務大臣に説明をした結果、特別交付税という市が自由に使える交付金が従前より4倍の年間約2.4億円となりました。

また、地元に必要なものは国からの予算だけではありません。地方自治体の責任が拡大するにつれ、医療や教育などの国の政策が必ずしも自治体の現場で実践されない課題も出てきました。例えば、国は教育のデジタル化を推進しています。平成30年度より国は児童生徒３人あたり１台の教育用タブレット・コンピュータを用意できるだけの財政支援を行ってきましたが、この支援は地方交付税という紐付きの補助金ではなく自治体の判断で自由に使える交付金のため、多くの自治体では他の事業に交付金が使われてしまい、結果として教育用コンピュータの整備が遅れてしまいました（令和元年度補正予算により別枠で一人一台端末の予算が確保されたので、これにより大幅に整備が進むことになりました）。したがって、国の政策を地元の都議会議員や市議会議員と共有し（他方で都や市の事情を国の政策に反映させることもあります）、国と自治体で整合性のとれた政策にしていくことも国会議員の使命であるとも思い行動してきました。

国会議員、都議会議員、市議会議員が役割分担したうえで町田市・多摩市の発展のためにシームレスに連携することが重要と考えて行動していきます。

【町田市堺地区との要望活動と成果は中面に記載】

国から町田市への交付金額 大幅増額を実現！

特別交付税は、災害や特別な地域事情により地方自治体が資金不足にならないよう臨時の財源として国から交付されます。複雑な算定式を経て決まる交付税総額の6％と定められており、全ての地方自治体が一定の水準を維持できるよう総務省も算出していますが、それぞれの地域実情を全て把握しているわけではないので、その地域の事情と交付額が乖離しているケースも散見されます。

Profile
衆議院議員 **小倉まさのぶ** 町田市・多摩市選出（自民党東京都第23選挙区）

1981年　5月30日 多摩市生まれ、町田市在住
2000年　3月　栄光学園高等学校 卒業
2004年　3月　東京大学法学部 卒業
　　4月　日本銀行 入行
2009年　7月　オックスフォード大学大学院 修了
2012年　12月 第46回総選挙にて初当選
2014年　12月 第47回総選挙にて2期目当選
2017年　8月　総務大臣政務官 就任
　　10月 第48回総選挙にて3期目当選
　　11月 総務大臣政務官 再任
2019年　7月　桜美林大学客員教授 就任

目指せチャンネル登録1000人！
小倉まさのぶチャンネル
YouTube

町田市 / 堺地区
小倉まさのぶ8年半の活動成果

小山地区から誕生したまちだシルクメロンを応援

小倉まさのぶが初当選して間もなく、町田商工会議所の平本会頭（当時）より、メロンの水耕栽培を実現したいと相談を受けました。事業者や町田市、関係省庁と協議を重ねた結果、総務省地域経済循環創造事業の補助金４千万円を用いて、本事業を応援することが出来ました。そして、当時困難とされていた水耕栽培が実現し、**町田市の名産品「まちだシルクメロン」**が誕生しました。

今後六次産業化を更に進めて、市内の飲食店や販売店に加工商品の開発・販売を促していくことで、まちだシルクメロンを中心とした地域の活性化が図られることを期待しています。

保護者と子どもに優しいまちづくりを目指して

町田市内には、子どもセンターや子どもクラブが、11館整備されており、保護者や子どもたちの成長拠点として利活用されています。

小山地区は町田市内でも子育て世代が増えている地域です。全国的な少子高齢化の中、喜ばしいことですが、子どもたちの遊びやスポーツの場が不足している等の問題も生じています。こうした状況を改善すべく、小山ヶ丘地区に、**子どもセンター「ぱお分館 WAAAO（わーお）」**が整備されました。この施設は、既存のマンションの共有部分等を利活用することで、事業費を抑えつつ効果的に子育て支援を行うという新たな試みの施設です。この事業には、国の地方創生交付金が使われました。さらに、小山地区には、**小山子どもクラブ「さん」**が誕生しました。小倉まさのぶは「町田の課題解決も立派な〝地方創生〟」との想いで総務大臣政務官時代から地方創生に関わっています。

また、子育て支援も重要です。保育士の待遇改善や保育園の整備等が進められ東京都の待機児童数は8分の1まで減少したものの、依然として様々な課題があります。わが国の子ども関連予算は他の先進国の半分程度に過ぎません。小倉まさのぶは、こども庁創設の議論を始めた自民党中堅・若手勉強会のメンバーのひとりとして、子育てしやすい環境の整備にも全力で取り組みます。

デマンド型交通流通システムによる

町田市民バス「まちっこ」相原ルートの創設

小倉まさのぶは、相原地域の交通問題を解消すべく、町田市民バス**「まちっこ（相原ルート）」**の運行補助を行う為の特別交付税の要望を総務省に行いました。その結果、要望額の満額2千万円の補助が決定し、決まった路線や時刻表を作らずに、日々の注文に応じて運行する、いわゆるデマンド型交通（コミュニティバス・乗合タクシー）事業が実現しました。

小倉まさのぶは、高齢化が進む中で、市民の皆さまがいつでもどこにいても快適に暮らして頂けるよう、交通利便性の向上に今後も力を入れてまいります。

リニア中央新幹線開通に膨らむ期待

2027年開業予定のリニア中央新幹線は品川・名古屋駅間を40分、延伸後は品川・大阪駅間を67分で繋ぐ**「夢の超特急」**です。小倉まさのぶは、超電導リニア鉄道に関する特別委員会の事務局次長として、早期開業に向け尽力してきました。そのリニア中央新幹線の駅が、相原駅から横浜線で僅か3分の橋本駅付近に設置されることとなりました。リニアの開通に伴い、新たな人流が生まれます。

県境にまたがる課題こそ国会議員の出番です。町田市や相模原市と連携し、リニアの開通が堺地区に賑わいと活気をもたらすことができるよう努力します。

相原駅周辺の整備

小倉まさのぶが事務局次長を務める自民党交通安全対策特別委員会にて、「改正踏切法」の施行状況を政府に確認しました。平成28年度に相原駅大戸踏切が国の指定踏切道となり、渋滞解消の取組みが前進しました。**町田街道大戸踏切の立体化事業**も相原地区まちづくり構想をベースに着実に前進しています。政府はこの5年間の成果と課題を検証し、自治体への支援スキームを改良していく予定です。私達は、踏切での車両の一時停止解消等の交通の更なる円滑化を政府に働きかけております。

また、駅前道路が整備されて無電柱化がなされ植栽が施されて景観がより良くなりました。西口駅前広場のロータリーも整備され、市民の皆様のバス運行の安全性がさらに高まりました。相原駅を拠点とした活力あるまちづくりを後押しします。

相原駅西口の今と昔

2016年3月相原駅西口広場にバスの乗り入れ開始。
写真は相原駅西口バスロータリーの現在と整備前。

相原駅大戸踏切

渋滞解消は喫緊の課題です。

地域とのふれあい

相原フェスティバルに参加。毎年楽しみしております。

諏訪神社・丸山神輿を
毎年担がせて頂いてます。

大地沢まつりに顔出し。手作り弓矢体験。

堺市民センター祭り。学生に
ハートのボディペイントをしてもらいました。

小山さくらまつり。
天才ドラマー少女の演奏は圧巻でした。

サレジオ工業高等専門学校で講演。

アレサふれあいまつりに参加。